

主要な眺望景観は、次に掲げる予測手法の中から最適なものを選択し、眺望の変化を視覚的表現によって予測する。

(1) フォトモンタージュ法

主要な眺望点から撮影した写真に、対象事業の完成予想図を合成して景観の変化を予測する方法。合成には、コンピュータグラフィックス手法を応用することもできる。最も、一般的に用いられている手法で、再現性は比較的高く適用範囲も広い。

(2) 透視図法

主要な眺望点からの完成予想図を透視図法によって描く方法で、背景もすべて描く点で「(1) フォトモンタージュ法」とは異なる。透視図法はフォトモンタージュ法に比べて再現性の面で劣るが、景観の状況、視野範囲を自由に設定できる利点を持つ。

(3) 模型による方法

周辺地域を含めて対象事業の完成模型を作成し、模型場の主要な眺望地点からファイバースコープ等を用いた写真によって景観の変化を予測する手法。再現性は模型の精度によって左右される。周辺地域の範囲が広い場合には、模型製作のコストが高くなる。「(1) フォトモンタージュ法」や「(2) 透視図法」では眺望地点ごとに作業をする必要があるが、この場合は、模型ができれば眺望地点はいくつあっても作業量はあまり増加しない。したがって、対象範囲が限定されていて眺望地点の数が多き場合には、この方法が有効となる。

(4) ビデオによる方法

ビデオ画面上に対象事業の完成予想図を合成して景観の変化を予測する手法。再現性はビデオの種類によって異なるが、概ね写真よりは低くなる。視野が連続的に変化する場合（パノラマ景観、道路などのシークエンス景観など）には有効な手段だが、その場合、事業地の見え方も連続して変化させる必要があり、コンピュータグラフィックスによる処理が不可欠である。合成図の精度は、コンピュータグラフィックスにおける処理精度（作画するコマ数）に左右される。

(5) コンピュータ・グラフィックスによる方法

コンピュータを用いて地形、植生、構造物（既存のもの、事業により新たに出現するもの）をすべて作画する手法。再現性は、コンピュータの性能や作画手法によって大きく左右される。コンピュータ上に必要なデータが入力されれば予測は計算処理のみで済むことから、眺望地点の数が多き場合（道路等）、戦略的な予測、仮想視点からの予測、複数案の比較等を行う場合に有効である。

2 予測地域

予測地域は、調査地域における景観の特性を踏まえ、主要な眺望点及び景観資源特性並びに主要な眺望景観に係る環境影響を受けるおそれがある地域とする。

3 予測対象時期等

予測対象時期は、対象事業の土地の造成や工作物などが完成した時期とする。